

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和4年7月 6日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

6月 15日 (水)

提案 鷹野 誠 先生 (本牧南小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 田倉 直哉 先生 (茅ヶ崎小)

記録 梅津 仁 先生 (下和泉小)

1 提案内容 単元名

単元名「わたしたちの暮らしを支える政治～本牧市民プール再整備事業を追って～」

2 提案者より

- ・子どもたちが「どのような教材」と「どのように出会うのか」という意識をもち、学習指導要領との整合性を図っていくことが大切だとあらためて感じた。
- ・本牧市民プールは、子どもたちにとって身近であり、今後のかかわりも想定されることから取り上げたが、再整備が終わっていないので、具体的に捉えることが難しい場面もあった。
- ・「子どもたちのどの発言を取り上げるのか。」「それによって、本時目標に迫ることができるのか。」といった教師の指導性の部分に関して、今後も皆さんと研究を深めていきたい。

3 協議会

視点①「主体的な学びを実現するための、予想と見通しを生かした単元づくり」

(成果)

- ・材との出会わせ方がよく、子どもたちが熱量をもって取り組めたのではないかと。
- ・本牧小の子どもにとって身近な材であり、自分ごとにしやすい。
- ・教師が用意していた資料集を読み取ることによって、子どもたちが考えをつくることができた。

(課題)

- ・工事中で結論が出ていない事案なので、子どもたちにとって難しい材だったのではないかと。

視点②「社会的事象の意味等に迫るために、協働的な学びを大切にした授業づくり」

- ・歴史的な背景をもう少し掘り下げることで、この施設に対する人々の要望や意識の変化などを捉えさせることができたのではないかと。
- ・地元の人などの反対意見もあったことなどを、教師が切り返したら子どもたちの思考も深まったのではないかと。
- ・誰のための、何のための施設なのかを問うことで、子どもたちの考えが深まったのではないかと。

- ・市議会で検討されていることだから、その動画を資料として手に入れて、子どもたちに視聴させられると良い。市議会では正に多様な市民の意見を反映して、討議が行われている。また、その質疑応答は、ほとんどが数分なので、子どもも視聴に耐えうる長さである。学校から直接の依頼では難しいかもしれないが、先ず議員に取材を申し込み、その経緯で動画の入手をお願いすると、資料として手に入れることも可能である。（ハマ弁で実践済み）意図的に編集した紙面の資料も価値が高いが、議論の全てを動画で視聴することで、全ての子どもたちが、様々な立場の意見があることを理解し、その立場を理解しながら自分の考えを重ね合わせて発言する姿が見られるようになる。
- ・本時の学習問題の「何のために」を「どのように」と変えることで、更なる協働的な学びにつながったのではないか。本時での協働的な学びとは、企業・行政・反対する市民・賛成する市民等の様々な立場で、子どもたちが多角的に考えることで深まるのではないか。だとすると、学習問題を見直し、多角的な立場での思考を促すような構造的な板書をするのが、本時の改善につながると思われる。

＜世話人の先生より＞ 菊名小学校 野間 義晴 校長先生

視点になぞらえて

- ・学校の財産にしてほしい素敵な教材であった。
- ・「おりあいをつける。」この件では、賛成・反対の立場や、本件の場合、海を失った市民（漁業関係者）の立場という歴史的な背景までおさえることが大切である。これらの立場がある中で、「みんなが平和になるように」と考えていくのが政治であることを子どもたちがつかめるとよい。それぞれの立場における利益は、何だったのかをおさえるといい。その立場の違いに、おりあいをつけたのかを子どもたちと語り合えたらいい。

子どもの姿

- ・本時の授業動画からは、学級全体の共感する姿が見られてよかった。
- ・一人の子の発言を皆で考える。「この子の発言を核にすると、授業がまわっていく、前に進んでいくに違いない。」そのようなみとりをしていくことを大切にしてもらいたい。

文責 佐藤 安世（北綱島小学校）